

# キリスト教保育

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

子どもと賛美

まもり

巻頭言

互いの違いを認めつつ

佐藤千瀬

論説

子どもと保育者が

「共に在る関係」になることと

子ども理解とのつながりについて

山田陽子



2023 FEB.

2

しかし主を待ち望む者は新たなる力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることはなく、歩いても弱ることはない。

口語訳聖書・イザヤ書40章31

今月の聖句は疲れをおぼえやすい私たちに力と慰めをもって迫ってくる聖句です。「主を待ち望む者は新たなる力を得る」前後左右が閉ざされても、礼拝を通し、祈りを通して目を上にあげる時、上の窓だけはいつも開かれていることは感謝です。私たちも上を仰ぐときこえてくる神のひと声で疲れは吹き飛び、新しく生きる力を頂くことができますのです。

「新たな力」とは何でしょうか。それは「わしのように翼をはってのぼることができる」力です。神さまを信じる翼をはる時、私たちもたとえ逆風（困難）にあっても、かえってこれに羽ばたき、飛躍する機会とすることができるのです。『雲の上はいつも晴天』という言葉がありますが、暗雲（現実の困難）を突き抜けて上に出ると常に変わらぬ太陽（神の愛）が輝いているのです。

「世に打ち勝つ勝利、それは私たちの信仰です」（ヨハネの手紙一5:4）とありますが、「勝つ」は『overcome』で「上に行く」という意味です。鳥は飛行というより高い法則によって引力という法則に打ち勝つように、人は信仰というより高い法則によって「世に勝つ」ことができるというのです。「鷲」は聖書では速さと共に、若さの象徴として用いられています。「鷲のような若さを新たにしてください」（詩編103:5）

上より力を受ける時「走っても疲れることがない」特別な使命や責任を負わされても、これを果たす力が与えられるのです。「歩いても弱ることはない」平凡単調に見える日々の生活においても、生き生きとした生活ができるのです。『だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます』（コリントの信徒への手紙二4:16）。ここにこそ、たくましく生きる生き方があると言えるのではないのでしょうか。

幸せとは苦しみが無いことではなく、慰めがあることだと思います。そして、真の慰めと励ましは上から来ることをおぼえたく思います。

たくましく生きる保育者のもとで、たくましく生きる子どもたちは育つものと信じます。

（吉井秀夫・執筆 当時・鹿屋キリスト教会牧師 信愛幼稚園園長）

1988年『キリスト教保育』誌3月号より

# キリスト教保育

第647号2月号



年主題  
つながって  
～今、わたしを生きる～

幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉互いの違いを認めつつ 佐藤千瀬

〈論説〉子どもと保育者が「共に在る関係」

になることと子ども理解とのつながり

について 山田陽子

図書紹介 兒玉智子 浅野信子

〈小論〉お話を語る魅力と大きく喜び(1) 菊野秀樹

子どもと賛美するために

聖書に聞く・お話 篠田真紀子

【カリキュラム】

2月 月のねがい表

心にとめて 海野美代子

実践報告 認定こども園光の子

実践からの学び 金澤直子

私たちの園では 高梨美紀

心にとめて 寺田千栄

実践報告 三瓶幼稚園

実践からの学び 小出肇

〈連載〉キリスト教保育Q&A 塩谷直也

〈連載〉領域「表現」とは 尾根秀樹

礼拝のお話

目福口福耳福 今村愛喜

絵本のとびら 倉地利巳子

風 塚本潤一 編集子 白井真名字

連盟だより

平和への祈り 田島靖則

表紙絵 田中横子

カット

長野祥三 長縄えいこ  
金井ユリ 中畝治子

松成真理子

42 46 59 60 61 62

21 22 24 30 31 32 34 39 40

